

ウイルス担当(平成17年度)

病原体定点調査(感染症発生動向調査事業)

(1) インフルエンザウイルス

平成17年11月から平成18年5月までにAH1H1型ウイルス57株、AH3N2型ウイルス76株、B型ウイルス3株合計156株のウイルスが分離または遺伝子が検出された(定点外医療機関からのAH3型ウイルス1株とB型ウイルス2株を含む)。このうちAH1型ウイルスについては平成17年12月16日(第50週)の鶴見区と瀬谷区定点検体から4株分離された。その後2月第7週をピークとして4月第14週まで分離された。一方、AH3型ウイルスについては平成17年12月16日(第50週)の港北区定点検体から1株分離され、年明け後は1月第3週をピークとして3月第10週まで分離された。他方、B型ウイルスは平成18年4月20日(第16週)の西区医療機関から依頼された検体から2株分離され、その後、5月8日(第19週)の磯子区定点検体から1株分離された。各ウイルスの抗原性状を調べたところ、AH1型ウイルスの多くはワクチン株であるA/New Caledonia/20/99類似株であったが、4株はワクチン株に低い反応性を示した。また、AH3型ウイルスはワクチン株であるA/New York/55/2004類似株であった。一方、B型ウイルスはワクチン株である山形系統のB/Shanghai/361/2002には反応せず、Victoria系統のB/Brisbane/32/2002に類似したウイルスであった。

(2) アデノウイルス

一年を通じて15株分離された。5、6月に小児科定点より搬入された咽頭結膜熱患者由来の7検体のうち2検体からアデノウイルス3型が分離された。眼科定点の検体からは1型と、37型が各1株分離された。

(3) エンテロウイルス群(ポリオ、コクサッキーA・B群、エコー、エンテロウイルス71)

夏季を中心に、14種43株が分離された。ポリオウイルスの分離時期は春秋のワクチン接種時期と一致していた。手足口病患者由来の12検体のうち7検体からコクサッキーウイルスA16型、1検体からはエンテロウイルス71型が分離され、またPCR検査では1検体からエンテロウイルス遺伝子が検出された。ヘルパンギーナ患者由来の13検体のうち3検体からコクサッキーウイルスA6型、2検体からコクサッキーウイルスA16型、1検体からはエンテロウイルス71型が分離検出され、またPCR検査で6検体からエンテロウイルス遺伝子が検出された。なお、全国的な傾向としても、手足口病患者からはコクサッキーウイルスA16型、ヘルパンギーナ患者からはコクサッキーウイルスA6型が優勢に検出された。

(4) RSウイルス

冬季の小児のかぜの主要な病因ウイルスの一つとしてよく知られており、冬季を中心に18株検出された。

ウイルス性食中毒等の検査（平成17年度）

非細菌性の有症苦情を含む食中毒等の事例（感染症の事例も含む）に対する検査は、昭和58年度より原因究明のための調査・研究として実施している。平成17年度の検査数は、123事例1,222件（患者668件、従業員474件、食品80件）で、昨年度の事例数（123事例）、検査数（1,158件）ともに同程度であった。従業員474件中の25件は、ノロウイルス陽性となった従業員について、陰性確認のために平成16年3月15日より実施している有料依頼検査である。

全123事例中の66事例（53.7％）はノロウイルス陽性、3事例（2.4％）はロタウイルス陽性であった。今年度のノロウイルスの遺伝子型に関しては、G1型が12事例、G2型は52事例、G1型とG2型の混在が2事例であった。例年と同様にG2型が主流ではあることには変わりはないが、G1型およびG1型とG2型の混在の事例が昨年度と同数の合計14事例と多かった。また、平成18年1月から3月までにロタウイルス感染症が保育園で3事例（2事例はA群ロタウイルス、1事例はC群ロタウイルス）発生したことも特徴的であった。なお、C群ロタウイルスの事例では、陰性の園児1名からA群ロタウイルスとノロウイルスも同時に検出できた。

今年度のノロウイルス感染症による集団発生は19事例で、昨年度（38事例）の約半数に減少した。その事例数の内訳は、老人施設4（G1型：1、G2型：3）、保育園・幼稚園7（G1型：1、G2型：6）、小学校5（G1型：1、G2型：4）、養護学校1（G1型：1）、病院2（G2型：2）、の計19事例であり、老人施設での発生が昨年度の22事例から大幅に減少した結果である。

また、平成11年度より市内市販品の生食用カキにおけるノロウイルスの汚染状況調査として、収去品の検査を実施している。本年度は本場、南部の両市場検査所でカキ中腸腺からのウイルスRNAの抽出、cDNAの合成までを行い、当所でリアルタイムPCR（ABI7700）によるノロウイルス遺伝子の定量検査を実施した。その検査結果は、77検体（パック）中11検体が陽性であった。

肝炎ウイルス検査

(1) B型肝炎ウイルス

平成17年度における検査件数は1,421件でした。横浜市大附属病院（福浦）の医療従事者の定期検診ではHCV抗体検査も併せて1,086名の検査を実施した。

各区福祉保健センターからの依頼検査の総数は335件であった。

自主的検査としては、横浜市立大学病院口腔外科を通じて、神奈川県内の歯科医師会の歯科医療従事者へのHBワクチン接種のための検査を88件行った。

(2) C型肝炎ウイルス

平成14年度に厚生労働省老健局老人保健課より「肝炎ウイルス検診等実施要領」が示され、本市でも平成14年度から各区福祉保健センターで実施されている基本健康診査においてC型及びB型肝炎ウイルス検査を導入している。方法は、節目検診と称して、満40、45、50、55、60歳の受診者を対象とし、5歳毎の年齢の時に1回限り検査を受診できるシステムで、検査を当所が担当している。本年度は5年事業の4年目で、検査総数は2,846件で、前年度（5,267件）より大幅に減少した。その内、C型肝炎ウイルス陽性者は35名（1.2％）、B型肝炎ウイルス陽性者は21名（0.7％）であった。

なお、平成14年度より行っている各区保健福祉センターにおける一般外来での有料扱い（上記以外の対象者）の検査総数は367件で、こちらも前年度（1,573件）より大幅に減少した。その内、C型肝炎ウイルス陽性者は19名（5.2％）であった。

これら受診者数の減少は、平成17年度からの福祉保健センターにおけるウイルス性肝炎以外の有料依頼検査受付の廃止に伴う影響と考えられる。

HIV検査

HIV無料匿名検査は、各福祉保健センターで実施している一般依頼検査、横浜AIDS市民活動センターでの夜間検査(18:00～19:30)、結核予防会中央相談所での土曜検査(14:00～18:00)の3つの受付窓口がある。それらから依頼されたHIVのスクリーニング検査は、昭和61年度から衛生研究所で検査を実施している。また、17年度から結核予防会中央相談所の土曜検査で即日検査を開始し、従来からの通常検査と即日検査が選択できるようになった。17年度の取扱件数は総数3,190件で、その内訳は、一般依頼検査:1,114件、夜間検査:750件、土曜検査(通常検査:428件、即日検査:1,346件)であった。その内の陽性10件の内訳は、一般依頼検査:5件、夜間検査:2件、土曜検査:3件(通常検査:2件、即日検査:1件)であった。

また、市民病院からの依頼であるエイズ患者のフォローアップ検査は、抗HIV薬剤に対する耐性株の出現をみることを主眼にしており、患者への治療方針の補助になるものとして平成5年度から実施している。17年度の検査件数は、患者数62名による65件であり、その内新患は35名であった。